

第92号

進路特集



発行 学校法人 藤枝学園
藤枝明誠中学校・高等学校
渉外課広報担当
TEL (054) 635-8155
FAX (054) 635-8494
【URL】 https://www.fgmeisei.ed.jp
【Email】 meisei@fgmeisei.ed.jp

東大・北大・東北大・東京工業大・筑波大・横浜国立大 など難関大突破!

平成30年度
大学合格状況

国公立50名
早慶11名
MARCH東理30名
関関同立16名



私は、この明誠中学高等学校での6年間の生活を通して、「なりたい自分を想像する」ことの大切さを学びました。自分将来、何を学び、何の職業に就き、どのようなことをやりたいのか、それを実現させるためには、何が必要なのか、ということを考え、受験勉強を行いました。私は、元々料理人になりたい、という夢をもっていました。ですからそのために、食品を科学的に研究したいという思いをもち、大学の志望学部は農学部を目指しました。1年生のときには、既に第一志望の大学が決まっていたので、その大学に合格するためには、高校の3年間で何が必要となるのかを考えることにしました。それから、そのためには1年間ごとに何をすれば良いか、といった様に、最初に大きな目標を立てて、それを実現させるために、目標をどんどん細かくしていきました。

例を挙げれば、私は国語が苦手だったので、まずは3年間で克服しようと思いました。そのために、毎日必ず問題を解くという目標を立て、「今日はこの課題を」、「この時間ではこの問題を」など、細かくその日の目標を達成していきました。

「なりたい自分」を想像すること

増田航大 (明誠中出身) 東北大学に進学



動することが、最も大切なことだと思いました。また、私は6年間吹奏楽部に所属していました。勉強と部活を充実したも勉強と部活を充実したも

この中学・高校の6年間、勉強を続けて、自分の目標を達成することができたのは、この明誠という環境や、先生方のサポート、また励まし合った友人たち、そして家族のおかげであったと確信しています。

その結果、入試の本番では目標の得点に達することができました。目標から逆算していき、その日にすべきことを考え、行かしたくないと思つたので、少ない時間でより多くのことを吸収するよう心がけました。勉強は、授業中で覚えられないことはすべて覚えるようにし、帰宅してから負担をなるべく減らすようにしました。部活でも同様に、一回ごとの練習に集中して取り組み、同じ間違いを繰り返さないように気をつけました。確かに勉強と部活の両立は大変でしたが、その分仲間との素敵な経験や、達成感を二倍得ることができました。6年間部活を続け、やり通したことに對して悔いはなく、とても満足しています。

全力で受験に取り組み、多くの実績残す

主な合格私立大学

早稲田 8名	慶応義塾 2名	上智 1名
明治 4名	青山学院 1名	立教 8名
中央 8名	法政 3名	東京理科 3名
関西 2名	関西学院 3名	同志社 2名
立命館 9名	岩手医科 1名	日本11名
東洋 4名	駒澤 1名	専修12名
北里 3名	國學院 2名	芝浦工業 3名
東京農業10名	明治学院 3名	南山 1名
文教 3名	日本薬科 2名	神田外語 2名
亜細亜 2名	杏林 1名	工学院 4名
国士舘 1名	順天堂 4名	昭和女子 2名
昭和薬科 1名	拓殖 1名	多摩 2名
玉川 1名	帝京 2名	東海 9名
東京工科 3名	東京電機 1名	東京都市 1名
東邦 1名	神奈川10名	関東学院 6名
金沢工業 5名	静岡産業 3名	静岡理工科11名
聖隷クリ ストファー 5名	常葉57名	愛知学院 6名
中京 6名	中部 8名	名城 2名
皇學館 1名	龍谷 1名	近畿 5名

その他多数(私立大学合計333名)

平成30年度大学合格状況

明誠ならではの丁寧な指導が合格実績を生み出す



国公立大学合格状況

東京 2名	北海道 1名
東北 1名	東京工業 1名
筑波 1名	千葉 2名
お茶の水女子 1名	横浜国立 1名
金沢 1名	静岡 8名
浜松医科 1名	名古屋工業 3名
首都大学東京 1名	横浜市立 1名
静岡県立 6名	静岡文化芸術 1名
大阪市立 1名	弘前 1名
宇都宮 2名	福井 1名
山口 2名	高知 1名
釧路公立 1名	青森県立保健 1名
前橋工科 1名	高崎経済 1名
富山県立 1名	公立小松 1名
公立諏訪 東京理科 1名	都留文科 1名
長野県立看護 1名	高知工科 1名

(国公立大学合計50名)

受験勉強の中心は授業 「聴く姿勢」「ノートを取る姿勢」に拘れ

安全志向で国公立大の中堅校が難化

今こそ「初心不可忘」目標を高く明確に持ち続けること

進路課長 本杉敬典



一昨年度入試の定員厳格化による私立大学一般入試の難化が、19年度入試にも影響し、合格者の絞り込みを警戒する安全志向が全国的に高まった。まずAO・推薦入試の志願者の激増（推薦入試は前年比18%増、更にセンター利用入試志願者も前年比17%増）や併願

校を増やす（特に実力相応校や合格確実校）受験生も増え、中堅校を中心に総じて厳しい私大入試となった。安全志向は国立大学の上昇は強気の出願動向につながるが、旧帝大

などの難関大学では志願者がやや減少し、地域の拠点校や地元国立大学への出願が多く見られた。また、従来欠席率も高かった後期日程の受験者も多く（私大難化の影響か）、国立大学でも中堅校の難化が印象的だった。

合格のための条件

学習内容を明誠ダイアリー「見える化」も

このような状況の中で合格を勝ち取った生徒は、通ずる点は、授業に対するモチベーションが高く、受験勉強の中心に授業を据えていたことだ。特にセンター試験は100%教科書の範囲から出題される。授業こそ最高の受験勉強となる。因果関係を考え、「なぜ？」という疑問を持ちながら授業に臨む（予習あつてこそ）、大切だと思うポイントを頭の中で繰り返す、ノ

トに資料集の関連ページをメモする、解かりにくかった箇所付箋を貼り授業後に質問に行く等、授業中の「聴く姿勢」「ノートを取る姿勢」に拘った生徒が学力を伸ばさせている（受け身で先生方の話を聞く、板書事項をノートに写す、これは作業で学習ではない）。毎日の50分の授業で培った集中力と持久力が入試突破の最大の武器となるのだ。また成功した生徒の多くは、9時まで学習等の放課後学習や帰宅後の家庭学習の限られた時間でやるべき内容とその制限時間等をきちんと設定し集中力アップを図っており、その計画・実行・反省・改善（PDCAサイクル）を明誠ダイアリー（「見える化」）している。自己規律があり自分との約束を守り切る生徒が合格を勝ち取ったのだ。

まずは基礎学力の定着を實踐

21年度からはセンター試験が廃止され、「大学入学共通テスト」が実施される。34期生は直接関係なかったが、飛び交う情報に不安は拭えなかった。本年度のセンター試験は易化傾向となり平均点がアップした。物理や化学、地理Bなどではダウンしたが、国語と英語リスニングでは大幅にアップした。文系・理系ともに受験するこの2科目が易化したため、国公立大への意欲が高まり、ポ

ード付近の層も出願数が増大したとみられる。そんな中で本校34期生の大学受験は予想以上に苦戦を強いられた。結果としては、続いてきた東大・京大の合格者はゼ

ルととなり、旧帝大レベルの合格者も1名であった。また、国公立大の現役合格者は、46名に留まり、科で平均に届かない科目があり、主要教科以外の強合格」を皮切りに、9

名、立教大8名は特筆すべき結果であった。ここで、34期生の取り組みを振り返ってみたい。長時間の学習に慣れることを目的とした「春の勉強合宿」を皮切りに、9

大学の求める学生像に対し

早めの準備・積極的な受験を



前3年学年主任 萩原正彦

科目の担当が不足していたと言える。私立大については絞り込みの影響も否めないが、難関大を含め合格者が伸び悩んだ。座、センター後の二次対

時まで学習、夏季講座、小論文指導、各科目の個別指導や講座など学習の機会が多く、特に夏季講座、センター後の二次対

高校3年生は本格的な受験勉強のスタートである。まずは基礎学力の定着を図り、具体的な学習を幅広く実践していきけるよう頑張してほしい。

3年生の受ける20年度入試は、センター試験が最後となり「後がない入試」と言われ超安全志向

私が受験勉強を始めたのは、高校3年生の6月のことです。なぜなら私は、6月の引退までバレー部に所属し、活動していたからです。クラスでは、2年生の1月から、すでに受験勉強が始まっていた。私は、6月から受験勉強をしていて、2月の入試に間に合わないかと考えていました。そのため、高校1年生の時から意識して行動していたことがありました。

1つ目は、得意教科をつくることです。私は理科に進むと決めていたの

秋以降は、基礎を固めた成果が出始め、着実に成績が上がり、なんと第一志望校に合格することができました。

私の合格には、両親や学校、先生方のサポートがあつてのもです。そして何より3年間、自分を信じて全力で努力できたことが一番の要因だと思います。

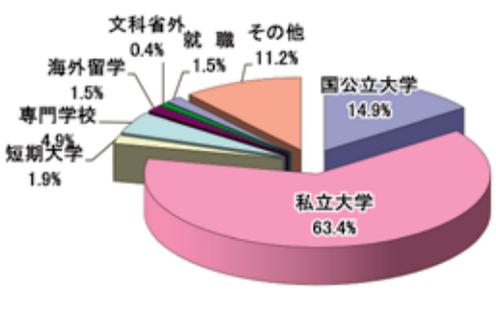
明誠は「9時まで学習」や、良い先生方の存在など、環境はそろっています。明誠に入学して本当に良かったです。6年間、本当にありがとうございました。



梅島明聖 (明誠出身) 横浜国立大学へ進学

自分で決めた道を信じる

平成30年度 進路状況



平成30年度 4年制大学合格率



成長させてくれたみんなに感謝



曾根大和 (明誠中出身) 青山学院大学へ進学

私は野球も勉強も頑張りたいという目標を抱き、中学から藤枝明誠に入學しました。高校生の姿を常にしながら生活すること、中学生だった私にとっては、中学生だった私にとつて、とても刺激になりました。

高校に進学するにあたり、普通科に進むという選択をしました。そこで更に文武両道を目指し、部活中心の生活になりました。

勉強面では、短時間集中で、授業を真剣に取り組み、その中でしっかりと理解できるように心がけました。また、中学から英教科に進んだ仲間の存在にも、大きな影響を受けました。クラスメイトに負けない、常に上位に入るという思いをもち、定期テストに臨みました。

クラスメイトとの競い合いは、お互いをより高め合う結果につながったと思います。受験の際には、小論文・面接の指導を親身に行っていました。自信をもって臨むことができました。

私を成長させてくれた野球・仲間、指導してくださった先生方、そして六年間明誠で野球をやらせてくれた家族に感謝し、大学で更にレベルアップしていきたいと思っています。

礼儀・規律を守る・リーダーシップをとることなど、日頃の取り組みがすべて野球につながることを意識し、「凡事徹底」を意識

自分のペースで学習を



杉山大知 (丸塚中出身) 順天堂大学へ進学

私には、どうしても入りたい大学がありました。そのため、早期に部活を引退し、勉強に専念し、一般受験をすることを決めました。それでも、本格的に勉強を始めたのは10月頃でした。

何から始めれば良いのかもわからず、困っている時に先生からの、「受験計画」という言葉を思い出し、本番から逆算して今の自分に何が足りないのかを考えました。

志望校の入試の各教科の配点や難易度です。それを基に、どの教科のどの部分を鍛えれば合格の可能性があるのかを分析し、そこを優先的に学習していきましました。

受験勉強を通して、意識していたことは、受験の日から逆算し、周りがどうであろうと自分のペースで学習することでした。

私の場合、取り組みが遅かったため、「日」単位で計画を立てました。日ごとの単位で計画すれば、どんなに誘惑があろうと「このページを終わらせるまで寝ない」という自分自身への脅しが効きました。

模試で良い結果を出せず、焦って計画を前倒しにしたことがありましたが、それは逆に定着度の低下を招いてしまいました。その後は、絶対に立てた計画に沿うことを意識しました。

野球で学んだことが力に



鈴木航介 (長田西中出身) 高崎経済大学へ進学

私は野球部に所属しており、2年の夏まで野球漬けの生活を送っていました。そのため、引退するまでは定期テストの直前までほとんど勉強をしない、ということも多々ありました。

センター試験や志望校の過去問題を解く際にも同じことが言えます。周りの人から「過去問はもっとたくさん解くべき」「もっと早く解くべき」と言われたこと

もありましたが、結局勉強をする自分自身が、最もやりやすい方法で勉強することが、一番学力が伸びると私は思いました。

正直なところ、自分自身が一番合格できたことに驚いています。しかし合格したいという強い気持ち、合格のための多大な時間と努力、その全てを結集したことで、これまでの模試で上位にいた顔の見えないライバルたちと、対等に戦うことができたのではないかと思います。

短い受験勉強の期間で多くの仲間や先生方、親に支えられ、励まされました。多くの人の支えによつて合格したことを忘れず、これからも精進したいと思っています。

私は野球部に所属しており、2年の夏まで野球漬けの生活を送っていました。そのため、引退するまでは定期テストの直前までほとんど勉強をしない、ということも多々ありました。

自分に合った選択を探す



秋山莉奈 (附属島田中出身) 静岡県立大学へ進学

私は公募制推薦で大学に合格しました。推薦入試は調査書・自己推薦書・学力試験・面接で選ばれる。自己推薦書で重要なのは、自分が入学した後に大学や社会にどう貢献できるのか、自分のやりたいことは何なのか、なぜこの大学でなければならないのかをいかにアピールするかということ

です。このようなことを論理的に記述していくことに大変苦労しました。なかなか納得のいくものにならず、何度も書き直しました。

提出を終えたら、面接対策です。面接では、自己推薦書の内容などを細かく聞かれますし、どれだけ将来についてビジョンを描いているのかが問われます。多くの先生方に指導していただき、職員室に通う日々でした。

次第に生まれる不安などに対して、話を聞いていただくこともありました。多岐にわたる質問や様々な状況での対応について指導していただいたおかげで、本番では冷静に対応することができました。

先生方のご指導と努力した時間が自信につながり、アピールできたのだと思います。

推薦をいただくまでは、一般入試に向けて次のようなことを行いました。夏休みには苦手教科に向き合うことに加え、実践経験を積むことを心がけました。緊張感の中で受験することに慣れるよう、学校で提示される模試にどう貢献できるのか、自分のやりたいことは何なのか、なぜこの大学でなければならないのかをいかにアピールするかということ

できない「自分に立ち戻る



杉山悠登 (吉田中出身) 早稲田大学へ進学

過去の自分自身というものは忘れて当然である。データは目に見える形で過去の余力を残す。しかしながら、国語偏差値43の現代文の解法や、心持ちは忘却から逃れられない。短期間で自分を劇的に変化・成長させてしま

うのが受験であるから。自分の合格は「トライアルアンドエラー」の賜物であると思う。何度も壁に当たり、原因を究明して克服するのが受験の鉄則であり、それを具体的にやる者が勝つ。だが、周りで実行していた者は少なかつたように思える。

一つ間違えたら自分も途中で壁を越えることをやめていたかもしれない。「できない」「伸びない」というのは受験においてやる気を削ぐことだからである。

基礎が終わり、演習中心の学習に入った頃、なかなか解けないと思うことがよくあった。原因究明をすれば必ず越えることができる壁であるはずなのに、無駄に高いと思ってしまうのである。基礎の参考書が終わって、完璧だと思いついてきたのだから、応用レベルが解けなかつたショックは大きい。

ここで私が忘れていたことがある。それは、受験を始めた頃の方が、「できない」と思うことが多く、日々腐心していたと

思っていたのである。2月までこれを怠ることなく続けて、合格を勝ち取った。だが、これで終わりではない。新生活には新生活の初心がある。それを胸に留めて新たな生活を始めたい。

これから文武両道を目指す



吉田 優輝 (和田中出身) 筑波大学へ進学

「文武両道」。私は、高校3年間、この言葉を目標にサッカー部での活動と、大学進学に向けた勉強の両立に努めてきました。もともと、この学校のサッカー部にあがれたのが入学の動機でしたが、サッカーを理由に勉強をおろそかにしな

しかし、実際にはなかなかうまくいかず、特に高校3年生の夏も過ぎたころになると、部活を続けているのはクラスで一人だけとなり、焦りが生まれる一方、部活では最後の大会に向けてチームのモチベーションが高まっている時期でもあり、結局どちらも中途半端になっ

早期に志望校を決めて集中して勉強する



網野 秀美 (大井川中出身) 首都大学東京へ進学

私が首都大学東京に合格できたのは、大きく2つのことが関係していると思います。1つ目は、志望校の決定が早かったことです。高校1年生の時にオープンキャンパスに行き、「ここに来たい！」と思

センター試験後は、すぐに二次試験の対策に切り替えました。志望する体育学部は、主な試験内容が実技だったので、部活の練習に参加させてもらったり、実技指導の予備校に通ったり、友人に練習相手になつてもら

周りの支えで合格勝ち取る



石黒 樹那 (大井川中出身) 静岡大学へ進学

私が大学合格を勝ち取ることができたのは、周りの人たちの支えのおかげだと考えます。まず始めに、真剣に学習に取り組みめる環境を整えてくれた学校に感謝し

最後に感謝するのは、両親です。1年次の寒稽古の際には、私のために早起きをし、3年次の9時まで学習の時には、毎日学校まで送迎をして

看護を志望するみなさんへ



佐々木 優奈 (菊川西出身) 浜松医科大学へ進学

私は、一般入試で浜松医科大学医学部看護学科に合格することができました。論文がありました。残念ながら不合格となつてしま

3年生になって、小論文を書くのに慣れてきたところ、今まで書いてきたことが、まったく口から出てきません

大学合格はゴールではない



野田 陽 (青島北中出身) お茶の水女子大学へ進学

私は、入学してすぐ、部活を最後までやり通すことと、国立大学に合格することを決めました。中学3年生のとき、吹奏楽部の定期演奏会

合格発表があり、結果がわかると、家族や先生方、先輩後輩、友人などたくさんの方が喜んでくれて、ここまで頑張ってきたことが、心から思いました。ですが、大学入学はゴールではあり



高校37期生334名・中学17期生74名が仲間入り

平成31年度入学式

充実した高校生活を送りたい



16HR (榎原中出身) 川島 月季野

私は将来、ゲームのシナリオライターになりたいと考えております。この夢を叶えられるようにならなくてはなりません。その目標を達成できるように、予習や復習や課題

勉強・部活に全力で取り組む



J11HR (吉田中央小出身) 大石 瑛太

僕は、明誠で勉強と部活を両立させたいと考えています。部活では、きちんと所属して、上手くなりた

学んだことを次のステップに



37HR (御前崎中出身) 野口 風香

ニュージールランド 留学体験記(4)

NZ(ニュージールランド)留学も残すところ2ヶ月となりました。私にとってここでの生活の一番の課題は、自分の意見に自信を持って発言することでした。何処に行っても、貴方は、又は日本人から見たらこの物事についてどう感じる?と聞かれます。そして自分の発した言葉は相手が自分に対して抱く印象に多か

れ少なかれ影響します。そのことに不安を感じ、日本では自分の意見を伝えることが得意な方だったのに、知らない人の前という状況下では何も言えなくなってしまうという状態です。未だに周りの目を気にして物事を考えがちですが、少しずつ自分らしく考え、胸を張って相手に伝えられるようになったのではないかと思います。海外では自分のことを全く知らない人達に自分の考えを伝える力は文化と同じような感覚で生活の中にあります。



国が違っても思いは共有できる

つなげていくために、帰国後も日々の生活の中でただ学ぶだけでなく、学んだことを、何に、どのように使うのかを常に考えながら生活していきます。

部活加入状況 中学96%・高校91%が加入

4月末現在で部活加入状況をまとめたところ、中学生は全体の87・6%、高校生は全体の82・7%と、どちらも実に8割以上の生徒が部活動に加入しているという結果であった。運動部では、野球・サッカー・陸上・バスケなど、多くの大

平成31年度 部活動加入状況

部活動	高校男子			高校女子			マナージャー			高校中			合計					
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年						
野球	21	22	65	65	0	2	1	1	4	69	8	11	12	31	100			
サッカー	73	87	99	99	0	4	0	0	4	263	0	3	2	5	268			
陸上競技	19	21	18	58	4	2	3	9	2	1	1	4	4	7	77			
バスケットボール	12	9	18	39	0	0	2	1	1	4	43	5	5	2	12	65		
バレーボール	1	10	9	29	0	0	0	1	1	2	22	0	0	0	22			
柔道	3	2	6	11	0	0	0	0	0	11	1	1	0	2	13			
剣道	3	5	8	16	0	1	0	1	0	1	18	1	0	0	1	19		
空手	1	3	3	7	1	0	0	1	0	0	8	0	0	1	9			
テニス	16	13	12	41	5	6	2	13	0	54	11	17	8	36	90			
応援指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
囲碁	0	3	2	5	0	0	0	0	0	5	0	6	3	9	14			
吹奏楽	2	2	2	6	16	13	11	40	0	46	8	5	3	16	62			
茶華道	0	0	1	1	17	9	3	29	0	30	0	2	2	4	34			
美術	2	3	0	5	5	1	6	12	0	17	0	0	2	2	19			
写真	3	0	0	3	1	9	5	15	0	18	0	0	0	0	18			
歴史研究	1	1	0	2	0	1	0	1	0	3	0	1	0	1	4			
書道	1	0	0	1	3	5	13	0	0	14	0	0	0	0	14			
科学	2	2	2	6	0	0	0	0	0	6	1	2	0	3	9			
将棋	1	8	3	12	1	0	0	1	0	13	4	4	2	10	23			
チアリーディング	0	0	0	0	3	3	5	11	0	11	6	4	3	13	24			
M.L.A.C	2	3	2	7	9	2	0	11	0	18	0	4	0	4	22			
女子バスケットボール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
射撃同好会	6	3	2	11	3	0	2	5	0	16	7	3	2	12	28			
女子バレー同好会	0	0	0	0	3	5	0	8	0	8	3	0	0	3	11			
フットサル同好会	22	20	9	51	0	0	0	0	0	51	0	3	4	7	58			
バドミントン同好会	18	11	5	34	17	11	5	33	0	67	0	0	0	0	67			
福太郎同好会(エッセイ)	0	2	0	2	0	5	1	6	0	8	0	0	0	0	8			
東大・京大研究会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
合計	209	230	223	662	88	75	50	213	10	5	4	19	894	56	74	55	185	1079

中1オリエンテーション・キャンプ・御殿場 得られた喜びや達成感は格別

平成最後のオリエンテーション・キャンプは、あいにくの空模様の中、行われた。施設利用者全体の集会である、朝夕の「集い」は一度も行われなかった。幸いなことに、目玉であるカレー作りやウォークラリーは天候が一時的に回復し、実施で



班で協力して出来上がったカレー作り

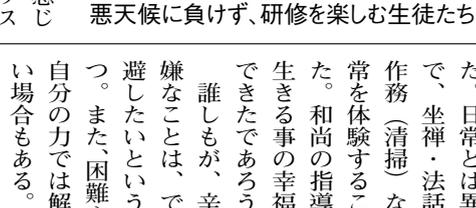
現代の日本で、私たちは物質的に恵まれた生活を送っている。明誠中学での一年間を振り返り、新たなステップを踏み出すために、藤枝明誠中学十六期生は、可睡齋で一泊二日の研修を行った。日常とは異なる空間で、坐禅・法話・写経・作務(清掃)など、非日常を体験することができた。和尚の指導のもと、生きる事の幸福さを実感できたであろう。



厳かな雰囲気の中、座禅に取り組む

高1 集団宿泊研修 3日間で団結を強める

4月24日から3日間、国立中央青少年交流の家にて、集団宿泊研修が行われた。「明誠の校風や規律を学び、クラス・学年間の団結を強める」という目的のもと、悪天候にも負けず、生徒たちは明るく真摯に取り組んだ。



悪天候に負けず、研修を楽しむ生徒たち

初日は規律指導と校歌・応援歌の指導に始まり、野外炊事へ。班毎、より美味しいカレーライスの完成を目指し、協力して行うことができた。2日目は午前中に集団行動訓練を実施。各クラスの気合いの入った声と動きに、見ている生徒たちも思わず大きな拍手を送り、団結の強まりを感じさせた。午後のウォークラリーでは、各グループで協力して課題を解決しながら7kmの道程を歩いた。夜はキャンドルの集い。ウォークラリーのグループに分かれ、キャンドルを囲みながらそれぞれ語り、和の深まりを感じさせた。3日目はクラス別研修会において、保護者への手紙をしたためた。真剣な表情でペンを持つ姿が印象的であった。今回の研修での成果が今後の生活に充分に活かされることを期待したい。(学年主任 萩原正彦)

藤枝明誠中学高等学校吹奏楽部

第30回定期演奏会

【会場】
焼津市大井川文化会館
ミュージコ
前売400円 当日500円

【日時】
令和元年6月8日(土)
開場18:00
開演18:30
令和元年6月9日(日)
開場13:00
開演13:30